

令和6年度 第1回生野区区政会議 こどもの未来部会

1 開催日時

令和6年6月28日（金） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員）8名

加藤委員、永裕委員、村岡委員、北口（英）委員、福田委員、足立委員、安委員、今井委員

（生野区役所）10名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、徳元教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、小川保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、森区政推進担当課長、武田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和5年度生野区の取組み振り返りについて

- ・資料1 令和5年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）
- ・参考資料1 説明スライド資料
- ・参考資料2 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応
- ・参考資料3 主なご意見等と区の考え方、対応

（令和5年度第2回生野区区政会議 全体会）

（2）区政に関する意見交換会の開催について

（3）その他

5 会議内容

○森区政推進担当課長

ただいまから令和6年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきありがとうございます。私は事務局の生野区役所企画総務課、森と申します。よろしくお願い申し上げます。着座にて失礼させていただきます。

それでは、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれました際には、お手数ですがご起立いただきますようお願いいたします。

加藤委員でございます。

○加藤委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

永栢委員でございます。

○永栢委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

村岡委員でございます。

○村岡委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

北口委員でございます。

○北口（英）委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

福田委員でございます。

○福田委員

よろしくお願い致します。

○森区政推進担当課長

足立委員でございます。

○足立委員

よろしくお願い致します。

○森区政推進担当課長

安委員でございます。

○安委員

よろしくお願い致します。

○森区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

なお、川本委員と西村委員につきましては、所用により本日も欠席となっております。

本日の会議は、委員定数 10 名に対し 8 名のご出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席で有効に成立していることをご報告いたします。そして、本日の傍聴者は 1 名となっております。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容が公開されます。事務局において議事録を作成しまして、後日、区のホームページなどで公開させていただくほか、会議の様相を収録いたしまして、後日、YouTube において配信し、どなたでも閲覧できるような形にまいりますので、録音や撮影につきましてご了承のほどよろしくお願いいたします。

こどもの未来部会では、主に子育て・教育の分野について、令和 5 年度の生野区の取組を振り返り、次年度の取組につなげていきますため、委員の皆さまにご意見やご議論をいただきたいと考えております。本日の会議でいただいたご意見などは、後日開催されます全体会の場で報告いたしまして、全ての委員の皆さまと共有させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。令和 6 年度第 1 回生野区区政会議こどもの未来部会次第をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。まず資料 1 といたしまして、事前に送付しております「令和 5 年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）」という A4 の資料でございます。次に参考資料 1 としまして、後にスクリーンにて投影いたしますスライドを印刷した A4 の資料でございます。次に参考資料 2 としまして「事前にいただいたご質問と区の考え方、対応」という A4 の資料でございます。次に参考資料 3 としまして、前回 1 月に開催いたしました全体会でいただきました「主なご意見等と区の考え方、対応」という A4 の資料でございます。資料に過不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

それでは、ここからの議事進行につきましては永裕部会長にお願いしたいと思います。永裕部会長よろしくお願いいたします。

○永裕委員

皆さん、こんばんは。部会長の永裕です。よろしくお願いいたします。ただいまから令和 6 年度第 1 回こどもの未来部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。

よって委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する

見方に立って積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。本日はお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、また大変足元のお悪い中、生野区の区政会議こどもの未来部会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

区政会議は条例に基づき開催するもので、区における施策・事業につきまして区民の皆さんから意見・評価をいただきまして、立案段階から意見を把握して、適時これを反映させるとともに、その実績と成果の評価に係る意見をお聞きするということを目的としております。

中でも、こどもの未来部会のテーマは、子育て・教育がテーマで、次世代を担う子どもたちがこの生野区で健やかに育つための環境づくり、また相談支援体制の整備などの分野となっております。

本日は、令和5年度の取組の振り返りについてご説明をさせていただきます。ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、より良い区政につなげていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○永裕委員

ありがとうございました。

それでは早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の今井委員に会議の進行をお願いしたいと思います。それでは今井委員、よろしくお願いします。

○今井委員

部会長からご指名いただきました今井です。よろしくお願いします。これから皆さまの意見交換のお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いします。

では、会議の次第に沿いまして、議事1、令和5年度生野区の取組み振り返りについて、区役所から説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

企画総務課の武田と申します。よろしくお願いします。

それでは、令和5年度の生野区の取組についてご説明いたします。着座して失礼いたします。資料につきましては、前方のスクリーンかお手元の参考資料1をご覧ください。

まずはじめに、生野区運営方針とは何かということについて簡単にご説明いたします。

生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクション

ョンプラン（毎年度の施策・事業の取組を明らかにするもの）です。下の図をご覧くださいますとイメージがしやすいかと思います。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが生野区将来ビジョンであり、それに向けて毎年度のアクションプランとして策定するのが生野区運営方針となります。

施策を進めるにあたっては、行政として限られた資源、予算、人員、時間等を使って最大限の効果を上げるため、PDCA サイクルの考え方のもとで毎年度策定される区の運営方針等により取り組んでいます

次に生野区運営方針の策定・評価スケジュールについてご説明します。こちらの図は、令和6年度から令和7年度初めにかけてのスケジュールをお示したものととなります。区政会議は年2回、上半期1回、下半期1回開催しますが、今回の第1回区政会議では、前年度の取組であります令和5年度生野区運営方針振り返りを行い、今後の生野区の取組に向けて委員の皆さまからご意見をいただくこととなります。

それでは、こどもの未来部会について、令和5年度の取組についてご説明いたします。詳しい取組内容につきましては、事前に送付いたしました資料1にありますが、それらの中からピックアップしてご紹介いたします。

こどもの未来部会で取り扱うテーマは、子育て・教育の分野となります。安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの現状・課題です。少子化が進行している中、次世代を担う若い世代を呼ぶ込むため、安心して子育てのできる環境であることをアピールすることが必要ということ。孤立しがちな子育て世帯が気軽に相談や交流ができるような機会の提供などの支援が必要ということ。絵本を通してこどもの想像力や感受性を育み、親子のコミュニケーションを高めていくきっかけが必要であることなどが挙げられます。

具体的な取をいくつかご紹介します。

生野区では、地域ごとに担当保健師がおりまして、妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援しています。保健師の似顔絵と担当地域を示したチラシを広報紙や区ホームページに掲載するほか、母子健康手帳交付時に配付し、妊娠期から顔の見える関係づくりを構築し、安心して妊娠・出産・子育てができるよう継続した支援を行っています。

また、妊娠・出産・子育てする上で知っててよかった、使って便利な行政サービスについて、いつ、どんなサービスが受けられるかを一目で分かるようにした「いくびよ my プラン」や子育てマップなど、必要な子育て情報をまとめた「いくみんびよびよファイル」を母子健康手帳と合わせて配付しています。

「にこにこいくのミニ子育てマップ」は、生野区内の親子で遊びに行けるところや、子育てについての相談先など、子育て支援に役立つ情報等を掲載しています。区役所をはじめ、生野区内の子育て支援施設等で配布しています。

いくのっ子広場とは、子育てしやすいまちづくりをめざし、生野区民の皆さんが主体となって、企画から運営まで行う子育て応援イベントです。公募により集まった子育てを支援している団体・グループ等で、いくのっ子応援事業実行委員会を組織して、楽しいイベント実施をめざして一丸となって頑張っています。親子で楽しみながら参加者同士が自然に交流したり、子育ての悩みを相談できる内容になるよう、メンバーで知恵を絞って工夫しています。昨年度は9月と1月の2回開催したところですが、イベント参加者の満足度は99.2%で、大変好評でした。

また、いくのパークにおいても子育てイベントを開催しました。図書室では、大阪わかば高校の生徒さんによる多言語での絵本の読み聞かせや、体育館では保育士による手遊びや、ワークショップなどを子育て広場で開催し、ピアノ伴奏による絵本の読み聞かせなども行っています。子育ての情報発信としましては、生野区子育て情報サイト「いくの de 育～の」を活用するほか、区のホームページでも分かりやすく発信しています。

子育て分野のアウトカム指標と令和5年度の達成状況です。区民へのアンケートで「子育てしやすいまちと感じる」と回答した割合、令和8年度末までに60%以上に対して、令和5年度は59.7%となっています。

続きまして、未来を生き抜く力の育成についての現状・課題ですが、学校外での学習状況や将来への希望、困難に立ち向かう児童生徒の割合が全国平均と比べ低くなっている。区内の児童数が減少しており、児童の良好な教育環境の確保及び教育活動の充実を図るため、学校配置の適正化が必要ということが挙げられます。

これらの課題に対し、学び支援事業、民間事業者等を活用した課外事業、いくの塾、生きるチカラまなびサポート事業など、次世代のこどもたちの学ぶ力の向上、「キャリア教育」、「性・生教育」などの支援を行っています。また、こどもの教育環境の改善のため、学校の適正化などの取組も行っています。

そのほか、生野区のこどもの学びを支援するために、多様な企業、団体等に、「IKUNO 未来教育ネットワーク」にご登録いただき、区内小中学校に対してキャリア教育や体験活動の充実、学校支援を推進しています。その取組ではありますが、IKUNO×ものづくり×ICT、次世代の職業体験プログラムの今年度の実績を掲載しておりますので、またご覧ください。

次に、まちの教育力を上げる取組としまして、毎年生涯学習ルームフェスティバルを開催しています。

教育分野におけるアウトカム指標と令和5年度の達成状況です。児童・生徒へのアンケートで「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦したいと思う」と回答した割合、令和8年度末までに70%以上に対し、令和5年度の達成状況は91.4%

となっています。区民へのアンケートで「学校だけでなく、地域でさまざまな学習、体験や交流ができる機会があると感じる」と回答した割合、令和8年度末までに50%以上に対し、令和5年度の達成状況は40.5%となっています。

子育て教育の令和6年度の取組みのポイントとしましては、これまでの取組を引き続き行っていくとともに、次世代を担う子どもたちが健やかに育つための環境を構築するとともに、区における産官学と地域の連携を図り、学校ごとに異なる課題や特色に対応した多様性に富んだ質の良い教育支援ができる仕組みを構築します。また、子どもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図ることができるように進めていきます。

令和5年度の取組の説明は以上となります。

続きまして、事前にいただいたご質問に対する区の考え方・対応についてご説明させていただきます。参考資料2と書かれた資料をご覧ください。質問については、子どもの未来部会に関するものだけ説明させていただきます。よろしいでしょうか。

3ページ目をご覧いただきたいのですが、こちらのほうで、安委員からいただいているご質問です。

真に支援が必要な方への確実な対応について。「専門的家庭訪問支援事業」の年利用家族数は何世帯で、その効果測定はされているのか。

子育て相談体制を何により強化するのか。キントーンシステムを活用した「子ども包括ケアシステム」の登録者数が増えていないが、具体的に何を強化して取り組むのか、教えていただきたいということです。

それに対する区の考え方、対応ですが、まず1つ目のほうですが、令和4年度、専門的家庭訪問指導事業実績は、妊婦1人、養育者16人でした。効果測定については、専門的家庭訪問指導事業導入時及び終了時に、「育児支援チェックリスト」と「赤ちゃんへの気持ち質問票」により実施しています。

2つ目のほうですが、区役所や地域、各子育て支援機関が情報共有を行い、連携を密にすることで子育て相談体制の強化を図ってきたところですが、キントーンシステムを活用したネットワークを構築してまいりましたが、登録者数については伸び悩んでいる状況であることから、活用の中から見えてきた課題をもとに、新たな手法について今後検討する必要があると考えています。

次ですが、今井委員からいただいているものです。

外国につながる家庭や多言語・多文化環境の子育て支援/教育についてということで、新しく日本にやって来られた外国籍の方々が増えているので、第一言語での情報提供や相談窓口、保護者・子ども向けのプログラムや気軽に行ける場所などの活動が重要になってくる。ピアサポートを導入したり、地域と連携して当事者の人たちが関わっていく仕組みがあるといいと思う。

また、大阪わかば高校の生徒さんが、区や地域と連携して多言語での絵本の読み聞かせをされており、生野区全体にもこうした多言語での取組が増えてほしいと思っており、保幼小、中高まで多言語・多文化環境の教育の取組を積極的にアピールしていく仕組みがあればいいと思うということに対しですが、区役所では、「外国語で書かれた絵本を紹介する小冊子」を、毎月の乳幼児健診の際に必要な保護者に配布しています。また、今年度から試行的に日本語学校と連携して外国につながる子ども（小中学生）への学習支援に取り組んでいく予定です。

4ページをご覧ください。島本委員からいただいている質問です。

「大阪市版ネウボラ」について、具体的に教えていただきたいということで、妊娠、出産や子育てに関して、地区担当保健師との顔の見える関係づくりと、家族ぐるみの支援を継続的に実施する取組を推進し、全ての子育て家族にとって安心して気軽に相談できる場をめざして、「大阪市版ネウボラ」を実施しています。生野区では、妊娠・出産・子育てする上で、行政サービスをいつ受けられるかが一目で分かる「いくぴよ my プラン」を作成し、母子手帳発行時面接にお渡ししています。

5ページをご覧ください。安委員の方からいただいています。

ライフステージに応じた子育て支援の充実について。1歳6か月健診12組の参加はあまりにも少ないので、増やすための情報発信を具体的に打っているのかということと、生野区における8か月健診と産後ケア事業の利用度を教えてほしい。生野区の2023年出生率が1.19は、大阪市平均出生率1.3よりも低く、助産師常置は必要不可欠であると考えますが、そのような人員配置は考えていないかということです。

まず1つ目のほうですけれども、乳幼児健診については、対象者全員に個別通知を実施しており、令和4年度の1歳6か月児健康診査対象者797人に対し、734人が受診しており、受診されなかった保護者へは個別に受診勧奨しております。また、1歳6か月児健診フォロー教室「すくすく」は、発達障がい児支援として発達障がい疑われる子を早期発見し療育支援に取り組む教室で、令和5年度は12組の親子が参加しています。

子育て世代への情報発信としては、母子手帳発行時面接や新生児訪問場面、乳幼児健診の場などでも子育てマップを中心とした子育て支援情報をお伝えしております。また、妊婦教室や子育て教室などの母子保健事業については、広報にも毎月掲載しておりますが、子育て支援情報が十分に行き届いているとは言い切れず、今後、工夫していかなければならないと認識しております。委員の皆さまにもまたご意見・ご協力をお願いしたいと思っております。

2つ目のほうですが、令和4年度の生野区産後ケア利用率ですが、7.0%とな

っています。アンケートにより支援が必要な妊婦を把握した場合は、助産師や保健師による訪問等により支援を行っています。なお、助産師による妊産婦訪問・相談事業につきましては、大阪市で助産師会と委託契約を締結し実施しており、当区では助産師を雇い上げる予定はありませんが、引き続き助産師会をはじめとしたあらゆる機関と連携して取り組んでまいります。

6 ページのほうをご覧ください。

未来を生き抜く力の育成についてということで、区内の不登校児童数の現状と対策を教えてくださいということと、生野区西部編成により統廃合された学校の先生、生徒、保護者に対する満足度調査（聞き取り）はされる予定はあるのかということに対してですが、大阪市立学校の不登校児童生徒数の現状は、大阪市全体のみ公表しており、別添資料のほうをご参照ください。

不登校対策は、大阪市全体として取り組んでおり、不登校の予兆を含む初期段階からの早期対応としまして、遅刻や早退、欠席しがちな児童生徒には、専門家と連携した対応等を行っています。また、不登校児童生徒の個々に応じた支援としましては、別室登校や学習用端末による自宅学習のほか、学校外の学習の場として教育支援センターによる支援、不登校特例校の設置など、多様な教育機会の確保に取り組んでいます。

2 つ目ですが、生野区西部地域の学校再編により既に統合しました学校については、開校の半年後に学校配置の適正化の効果や課題を把握することを目的に、「統合に関するアンケート」を実施し、学校のほか、保護者・学校適正配置検討会議委員へも情報提供を行っております。なお、他の校区でも開催している統合に向けた検討会議においても、委員の意向を踏まえながら情報提供していきたいと考えております。

最後に、参考資料 1 の最終ページか、前のスライドのほうをご覧ください。昨年、区政会議委員さんに区政会議に関するアンケートを実施しましたところ、区が特に話し合いたい事項を取り上げて意見交換する機会があればいい、テーマを絞って意見交換を行ってほしいといったご意見を多くいただきましたので、令和 6 年度からテーマを設定し、意見交換会を行いたいと考えております。

本日、特にご意見やアイデアをいただきたいことは、生野区では、令和 6 年度から試行的に日本語学校と連携して学校支援を図っていく予定であります。今後も日本語能力に課題のあるこどもたちの増加が見込まれます。外国につながるこどもたちの日本語学習支援にあたり、民間団体や地域との連携、人材の確保や活用等について、どのようなアイデアが考えられるか、というようなことをお聞きしたいと思っております。

以上、事務局からの説明となります。

○今井委員

ありがとうございました。ただいま区役所からご説明がありましたが、こどもの未来部会でもたくさん、私もですが、質問がありまして、そのことについては、まずご質問がありましたら、ご発言いただく際には挙手をしていただき、お名前を述べていただいた上でご協力をお願いいたします。その後に、またこのテーマに従ってご意見をいただけたらと思っております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。今の区役所の説明についてご質問とかがありますでしょうか。では安委員、お願いします。

○安委員

まずは、お手元の資料を見ていただきたいのですが、生野区の助産師さんの会からいただいた資料で、去年の秋にひと月くらいかけて、調査対象は、全体がこのときに700人で160人なので、2割以上、標本からするとそれなりの根拠があるのかなと思っています。ここに書かれていることと、私の質問の中で感じたことをいくつかお話しさせていただきたいなと思っています。

あともう1人、保育士の方からもいろんな意見を聞かせてもらって、まずは、産後ケアについてなんですけど、このアンケートの中でいくと、産後ケア自体のシステムがあるのを知っているのは知っているんです、8割くらい。ただ、思い込みが1つあるのは、産後ケアはシングルの人を使うものであったり、あるいは、乳飲み子を連れて役所に行くのは大変だという意見も、このアンケート用紙の中にあります。

もう1つ、僕は分からないんでね、直接お話ししてお聞きしたのは、保健福祉センターに行くと、窓口に立たれている方が助産師さんではないし、一般職員の場合があると。そのときに深く掘り込んで言うことができるのかどうかということ、僕自身が感じたのと、もう1つは、利用率が低いということは、もっとやっぱり家庭に入り込んでいかないと駄目なんじゃないかというふうに思っています。行政としていろいろやっているのに間違いはないんですけど、やっぱり受け身じゃなくて、一歩家庭に踏み込んでやらないと、なかなかケアはできないんじゃないかなというのが1点。

もう1つは、このアンケートの中に出てますように、授乳の間違った認識、特にこの調査の中にあるのは、インターネットでの情報を受け入れて、それを鵜呑みにしてしまっているということが1点。

もう1点は、いわゆるいろいろケアがあるんで、僕は男性なので昔思い出しながらなんですけど、粉ミルクの方が良いとか、母乳のことを言いすぎると、妊婦さんにかえって負荷がかかるような問題であったり。このおっぱいの出方がええんかとかいう悩みは相当数知れないようなんですね。そこに寄り添うというのは、助産師はもう常置しないというふうにはっきり書かれてはいるんですけど、やっぱり一歩踏み込んで専門職を入れないと。この前の区政会議の中でもお

っしゃっていたのは、保健師さんは、いわゆる全般的な業務を抱えていて、各地区ごとに巡回されているので、生野区は特に少子化がほかの区よりも進んでいますから、方針の中にもありますように、少子高齢化が喫緊の課題だとおっしゃっているのならば、一步踏み込んで、産後ケアなどを含めた妊産婦さんの寄りどころになる助産師の常置を考えるべきじゃないかなと、私は思います。

あと最後、学びのところで、僕が少し不満だったのは、不登校に関して一切書かれてないんですね。学びというのは、ちゃんと入り込んでいる人はいいいんだけど、その外にいてる人はものすごく大事で、さっきの資料を見てますと、どんどん不登校数が増えてるんですね。現場で聞いてると、もと鶴橋中学校は教育支援センターになっているんですけど、外国人も含めて、認知されていないんですよ。学校の現場の先生でも、知らんという人がおるんですよ。そこはやっぱり行政と連携して、学びっていうのは両輪なんで、外にいる人たちもケアするのが本当の教育なんで、そこを踏み込んだ方針を立てないと、両輪のうちの前輪だけあって、後輪がないような状態になるんじゃないかなと思います。

以上です。

○今井委員

はい、安委員、ありがとうございました。

まず行政がやられてることを認めつつ、もう少し踏み込んでやっていただけたらどうかというようなご意見だったと思いますし、あとこの調査報告は安委員が用意されたのですかね。

○安委員

これはさっき説明しましたように、助産師の会があって、そこと一緒になって、産後の母子を支えている保育士さんたちが、私に是非ともこれをこの区政会議でと。いいですよ、本当に。とにかく、心がこもってるから、じっくりと読んでください。

○今井委員

区役所のほうに聞いてほしい声を準備していただいたのは、本当にすばらしいなと思っています。まず、ご意見というかたちで安委員から言っていただいたことを踏まえて、最後にまた区役所の方から一言言っていただいたらいいのかなと私は思っています。

併せて、ほかにも今回の区役所の説明のほうで質問とかありましたら。

○足立委員

はい、足立です。よろしく申し上げます。

安委員がとても質問されてて、私もちゃんとすればよかったとは思いますが、この区役所の回答とかを読んでいて、当事者の思いにどこまで沿っているのかなと甚だ疑問を感じます。

例えば、質問の5ページ目のライフステージに応じた子育て支援の充実についての2つ目の、「アンケートにより支援が必要な妊婦」っていう、必要な妊婦って言ったときに、もしアンケートに書くとしたら、「何か困りごとがある人は書いてください」だったとしたら、私も思うんですけど、ちょっとしたこと、不安になったときに寄り添ってもらいたいっていうときに、このアンケートにいちいち書くのか。例えば本当に言葉が出ないとか、こどもが歩けないとか、そういうことではなくて、不安であったりとか、ちょっと知りたいっていったときに寄り添うものが全然ないんじゃないかなと。うち、よくこども食堂とかイベントとかやると、お母さんたちも寄ってくれるんですけど、そのときにやっぱりちょっとしたことをすぐに聞ける。でも、わざわざ区役所に行って、窓口に行って、保健師さんに電話して聞くようなことかなと思うと、やっぱり二の足踏んじやって、「いや、こんなこと聞いたらあかんわ」って。本当にちゃんと自分の不安が解決できへんけど、結局ネットで調べて。ちょっと専門的な立場の人が、「いや、大丈夫やで」とか、「それはちょっと心配やね、じゃあ、こうしましょう」って具体的なアドバイスをいつでももらえるっていう安心感の中で子育てできたらどんだけ楽やったかなっていうような話をされているとしたら、今ご提案いただいた保育士さんのサポート、特に産後、私は自分で子育てをして、母がいてくれてたんですけど、今はワンオペやったりとか、近くに身内で聞ける人がいないってなると、本当にどうしていいか分からないときに、なかなか自分から進んでいくっていうのはできない。そんなときに妊娠中から顔見知りである、サポートしてもらえる助産師さんとかがいてたら、実は私、前にも言ったかもしれないですけど、私にたまたま特別なんですが助産師さんの教育実習生が付きまして、それですごく安心してもらえたの覚えています。だからやっぱりそうやってすぐに聞けるところがあるとしたら、もう既にこうやってアンケートもあってやりたい、やってもいいっておっしゃってくださる方がいるんやったら、今区役所としてはそういう予定がないというような書き方があったけども、導入されたらいいんじゃないかなっていうふうに思っています。

あともう1つは学校統合の問題なんですけども、半年後にアンケートを取ったっていうアンケートではなく、今、御幸森と中川の場合も2年か経った時に、良い話を何一つ具体的に聞かないので、今この統合の問題について何が問題だったかっていうのを、もう一度アンケート取るか、実態調査されたほうがいいんじゃないかなっていうふうに思っています。今から統合するところが非常に不安に感じておられる。不登校の数も増えたのではないかと、遠くなったからなのか、それとも、またいろんな統合の中の課題っていうのが分かってないのかなっていうのと。実際聞いたんですけど、未来学園なんかは工事、校舎を増設してるんですかね。私からしたら、それって統合する前にやっとなあかんのに、なん

で統合してまだ2年しか経ってないのに、校舎の増築とかをやるのは、あまりにも計画がずさんではないかと。やっぱり一番しんどいのは、障がいのある車いすのお子さんやったりとか、そういう方が今非常に大変な思いされてるんじゃないかなっていうのと、やっぱり、なんでかなという疑問がある。そういうのを見ても、適正というけど、何をもって適正ってすごく思う。何をもって統合が適正やったっていう、その適正の基準が曖昧で、人数が適正なんかどうか。でも、その後の不登校のこととか、学校が遠くなったこととか、校舎の建設のこととか、もうちょっと丁寧にやらないと、ますます不安をあおるのではないかと、というふうに思っています。

それともう1個、保健師の紹介のところ、前のやつですよ。古いね。

はい、以上です。

○今井委員

幅広く言うていただきましてありがとうございます。ほかの委員の方々もご意見をいただけたらと思っていますので、少しコンパクトにお願いします。お願いします。

○永裕委員

この後のテーマのお話に入る前に、今の安委員と足立委員の話に関連することだったので、先にここで言わせていただこうかと思えます。

私自身、障がい児者家族支援のNPO法人の代表もしております、地域の中で子育て支援の活動に関わっている現場の一人として思うのは、切れ目ない支援がほんまにできてるかなと。もちろん、それをめざしているのは伝わってくるんですけど、現実問題として足りているのかな、というのは思うんです。

あともう1つ、こども包括、確か今年5年目だと思うんですけど、こども包括の理念自体はとてすばらしかったと思えますし、よかったと思えますけど、安委員の指摘があったように事業整理をして、キントーンも伸び悩んでいるということなので、次に進むべきときが来たのではないかと現場の一人として感じています。

先ほどの、7ページの表もありましたけど、各地域に担当の保健師がいますということですが、1人1地域ではなく、何地域も兼任されている方もいて、保健師さんいっぱい、いっぱいやと思うんです、実際問題。保健師さん自身が、生野区はたくさん地域資源がある中で、それをどれだけ把握できてるかというのも、正直地域で活動していると思うわけです。保健師さんが怠慢ということではなく、もういっぱい、いっぱいでもそこまで手が回っていない状況だと感じるんです。ただ、こ地域と行政と民間をつないでいこうっていう、ども包括の理念はすばらしかったわけやから、それをこども包括、子育てCSWというのをはさみず、ダイレクトに保健師さんにつながっていくようにしたらいいのではないかと。そ

うすることで切れ目ない支援というのができていくのではないかというのを感じるんです。やはり限られた予算ですので、間にもう一人はさむよりは、保健師さんから、それこそ妊産婦の頃からの地域資源につながっていくという形にしてもらうことで子育て CSW、もしくはこども包括の理念をきちんと生かした、経験を生かしたまま次のステップに区全体が進んでいくのではないかと感じています。

○今井委員

ありがとうございました。安委員、足立委員、部会長とそれぞれに言っていただきましたが、切れ目ない支援というものを、どのようにより良いものにしていくか。そして、寄り添って、という声もありましたが、そのことは最後にまたご意見とか区役所のほうからも回答があればと思っております。

じゃあ、テーマに絞らせていただいてもよろしいでしょうか。

そうしましたら、区のほうからテーマが示されましたので、テーマに沿ってご意見、アイデアをいただけたらと思っております。もちろん、テーマ以外でも構いませんが、こういった、社会の中で孤立しがちな方々をどういうふうに地域の中で一緒にやっていくかということだと思います。

テーマ。外国につながるこどもの日本語学習支援にあたり、民間団体や地域との連携、人材の確保や活用等について、どのようなアイデアがあるか、ということです。一言だけ、話題提供ということで私から少しお話ししたいと思っております。

私、生野で学習支援に関わってしまして、そこには日本語の勉強にやってくる子どもたちも来るんですね。その子たちの課題を見てしまして、1つはもちろん日本語に困ってはいるんですが、地域の中に居場所がないんです。日本語ができないことで地域の中に居場所がなくて、自分がここにいていいと思えない。居場所がないということと、区のテーマで思いますが、居場所と持ち場がないんです。日本語ができなくてもいろんな文化を知っていますし、いろんな自分の国の言葉を知っているんですが、その活躍する場所がなく、子どもも保護者も孤立してしまっているということがよく聞こえてくるんです。ですので、是非とも、地域の中で活動されていたり、皆さんがこういう子どもとか保護者がどうやって地域参加できるか、みたいなアイデアなど、何かいただけたらと思っております。それか、もうやってるよということがありましたら、聞かせていただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

福田委員、お願いします。

○福田委員

こんばんは。巽南の福田です。巽南では、先月、5月末に地域行事でふれあい動物園であったりとか、この1年、2年でコロナが明けて、各地域も地域交流が

盛んになったと思うんですけど。今コロナ明けで生野区内のどこのまちでも日本語学校の生徒さんも増えましたし、学校もあちこちにあると思うんですね。先月も巽南の地域行事にも多くの日本語学校の生徒さんが来られました。当初は、模擬店とかで出店したいという話があったそうですが、いきなりそれは難しいのではないかとということで、皆さんの通われているまちでどのような行事が行われているか一度見に来てくださいとなった。本当に多くの方が来てくださったんですけど、同じ学校の人がみんな集まるのは、まだ一緒に行動しやすいんですが、先ほどお話があったように小学校でも1学年に同じ国の方が1人だったりとか、本当に今アジアでもいろいろな国の方が小学校、中学校に生徒として来ていますので、逆に同じ国の生徒の方と日本語学校の方がつながるようになっていけばいいのかなと思います。日本語学校の生徒さんだけで活動する、区役所に対して何か行動を起こすのではなくて、国同士の方が一緒になったら気が楽になる部分もあると思いますし、心が開く部分があると思いますので、そういう場を生野区のほうでも考えてくださればいいかなと思います。

例えば、先日紫陽花まつりのお手伝いをさせていただいてたんですけど、いろんな生野区内の団体が活動してますけど、そこにも日本語学校の生徒さんであったりとか、諸外国の人、子どもさん、親子連れであったりが皆さん参加できるような案内であったりとか、イベントに参加するのではなくて、お手伝いの声かけですね。例えば、自転車整理、一緒にしませんか、とか。そういう声かけも含めていろんなつながりを広げていくことによって心を広げいく子ども、親御さんが増えればいいかなと思っています。

○今井委員

ありがとうございました。じゃあ、巽南の地域行事に今度は留学生も出店するということですか。

○福田委員

まだそこまでいってないですけど、多くの方が来てくださった。

○今井委員

同じ国同士の人たちが本当に自分の国の言葉で話せるというアイデア。子どもにとってはロールモデルみたいな人が近くにいるというのは大きいということは昔からよく言われているので、本当に1ついいアイデアをいただいたと思っています。

他にいかがでしょうか。

最近増えているという実感はあると思われませんが、いかがですか。

○永裕委員

地域の取組を1つお話しさせていただくと、もう10年目くらいになるんですけど、もと生野小学校区で今はワンワールドインターナショナルスクールになっ

た地域で生野地区運営委員会、生野地区でも私は活動しております。そこで10年くらいかけて「生野会館開放するデー」という地域の会館を毎週水曜日の3時から5時くらいまで開けて、こどもに好きに来ていいよっていう活動をしています。以前はただ場所を開けて、屋根のある公園くらいの感じで「来てね、暑いときはクーラーついてるし」みたいなノリで開けていたんですけど、コロナをはさんで今は、おもちゃ版こども食堂ということで、来たらおもちゃを1つ配布する。クジを引いてもらって、選んだ色に合わせたカゴの中から、3種類くらいあるおもちゃの中から1個好きなものを選んで帰るという取組をコロナからだから、もう5年くらいしています。それをやっていて長い間地域のこどもたちに関わっていて思うのは、やっぱり外国籍のご家庭がすごく増えました。そこでつながってくれるご家庭はいいと思うんです。地域で生活する人は多いけれど、もちろん皆さん来てください。うちは地域の活動ではあるけれど、地域限らず、どこの子でも来ていいよ、という形で隣の地域の子とか、それこそ異の子とか、近所に保育園があるので来ました、みたいな。阿倍野区の子とかも来るわけですけど、そういうのを見てたときに、やっぱり外国籍の子、外国人家庭の子っていうのは、そこらへんの情報もすごく伝わりにくいと思うんです。来てくれている外国人のご家庭って、やっぱり親御さんが日本語がある程度堪能なところ。何をやっているのか、地域のことがよく分からんっていうのがあって。実は地域からすると、そういう方々とコンタクトを取りたくても、どうしていいか分からん。広報、PRしたくても、どうしていいか分からんというところがあるので、このアシストがあると、それぞれ地域活動とかでも入りやすくなるのではないかと思います。地域の中だけでやっていくのは、かなりハードルが高いと思うので、そこを埋めてくれる何かがあるといいなとめっちゃくちゃ思います。

○今井委員

ありがとうございます。とてもいいことをおっしゃってくださったと思って。行政の情報とか大きなチラシを配っても、外国人家庭に届かない。そのワンクッション入るものが必要だということで、それは地域だけでは無理だとおっしゃられていたんですけど。いくつかキーポイントがあって、顔の見える関係がすごく大事だという。あの人が言ったら分かった、みたいな。あとロコミが早いとか。いくつかあるんですけど、そこらへんで皆さん、アイデアとかありますか。もう既にやられているものとか。

北口委員、お願いします。

○北口（英）委員

異東の北口です。特に今やっているということはないんですけども、異東のほうでは、大阪わかば高校がありまして、あそこの高校は今外国の方をたくさん受け入れているので、いろいろな方に来ていただいているんですけども、異地域の

ほうで、例えば去年でしたら、防災のイベント「あそ防災」というのがありまして、そのときに大阪わかば高校の子にポスター的なものを作ってもらったりしました。ただ、開催日が日曜日で、高校としては関与できないというのがありましたので、大きくはできないんですが、ポスター的なものを何枚か描いてもらったものを展示するという感じのやつはやっていました。できたら、地域の祭りなんかでも、日曜日が絡むこともあります。そういったところから出てきていただければ、ある程度顔つなぎというのもできると思うんですけど。当の本人たちがいないところで、大阪わかば高校の子はこんな描きました、やりましたって言うても、宣伝にはなりません。結局、一番良いのは、人と人がおったら、「これ、僕が描いたんや」って言うてくれたら、「ああ、そうか」という話でまた盛り上がっていくんですけども、いかんせん学校の都合もあるので。そういったものでも、何らか一緒に活動ができればいいかなと思います。

ただ1つ、苦言を言いたいのは、大阪わかば高校もそうなんですけど、各種日本語学校の子たち、特に自転車乗ってる子のマナーが悪すぎる。別にその子を非難するんじゃないけど、せめて日本の言葉を教えるのであれば、日本のマナーもちゃんと教えてあげないといかんかなと思います。やっぱりこの国で学ぶということは、生活も学んでいかなあかんし、ええとこ学んで、ある日また国に帰ったときに、「日本はこういうとこやったよ」というものが伝わっていけば、日本としてもいい宣伝にはなると思いますので、そういうところをやっていただければいいかなと思います。

○今井委員

ありがとうございました。既に大阪わかば高校と少し接点があるという話を聞かせていただきました。

まさに大阪わかば高校の生徒さんと生野区で自転車のマナーといいますか、駐輪に関していろいろと気づいて、自転車をちゃんと止めましようとか、マナーをしっかりしましようということを区に提言してるんです。なので、外国の人にもそういうことを気にしてる人がいるというのが1つと、あとはマナーについても多言語で情報がどれだけその人たちまで届いているかとか、そこらへんも歯がゆいなと思いつつ、是非、そういうものをつなげていきたいと思いました。ありがとうございます。

いかがですか。例えば、いきいきとかで外国につながる子どもがいるとか。村岡さん、お願いします。

○村岡委員

地域は、旧中川、今の池小学校なんですけど、最近ベトナムの方がすごく増えてきているのは分かるんですけど、多分親御さんがまず来て、日本語がある程度できるようになったら家族を呼んでという感じなので、お父さんとかお母さ

んは日本語がしゃべれるっていうのが結構あって。あんまり不自由もしてないし、子どもさんはもちろん吸収が早いから、すぐしゃべれるようになってるみたいなんで、私らには何をどうしていいか全然分からないですけど。

○今井委員

ありがとうございます。日本語がすごく話せる外国の方は、是非、キーパーソンではないですけど、いろんな情報を日本語が分からない方々に伝えてもらうような役とか、そういうふうにしていただけたらすごくいいなと思いますよね。ありがとうございます。

よろしいでしょうか、加藤委員。

○加藤委員

うちの地域でも、お父さん、お母さんは日本語がしゃべれないという人もいます。子どもさんは日本語がしゃべれる。うちの町会の中でも中国の人とかベトナムの人とか、いろいろいますけど。町会は、子どもには5月5日のこどもの日のお祝いを各家に持っていきますから、それで少しずつ顔つなぎができているとは思っています。

先ほど足立さんが言われた学校の工事大変ですわ。今年は盆踊りができませんねん。去年はやっとこさできて、今年もやろうかと言うたら、学校が工事で校庭が使われへん。なんで生徒が増えるのが分からんのかなと思います。未来学園も今4校ですわね。何年か先にまた勝山小学校の校区のほうからも入ってくるらしい。もっと足らんのちゃうかなと思う。

○今井委員

ありがとうございます。住んでるからゆえに分かる「増えるんじゃないか」みたいな感覚。改めて、そういう感覚も、区政会議だから聞ける声かなと思って聞いていました。ありがとうございます。

あと、町内会に外国籍の方がいらっしゃるということで、是非、顔の見える関係を築いていただいて、その情報もたくさん提供してもらえたらなと思います。

すみません、安委員、先ほど手を挙げられたところ遮ってしまいました。

○安委員

私は、外国人との交流のグループ、IKUNO サラダ・ボウルプロジェクトという2団体に入っていて、活動はそれほどですけど、その関係で日生日本語学園やハウディ日本語学校とかとお付き合いさせていただいて、現状把握が一番大事かなと思ってます。実はネパール人が一番多いみたいですかね。桃谷商店街に行くと、オアシスというネパールの店があったんですけど、その隣がカレー屋さんで、テレビで出てましたね。その隣が食材店で、商店街に3つ並んでいるんですよ。

日本語学校の事務局と話していると、日本語学校って基本的に1年、2年で終わ

るんです。だから継続的にお付き合いするのはなかなか難しいというのが1つ。

もう1つは、今、北口さんがおっしゃったように、スリランカの人といろんなことで約束したんやけど、時間通り来ないんですよ。時間通り来ないことが1回じゃないんですよ。それって、僕らの感覚でお話しすることが多いかもしれないけど、日本は時間通り全て始まるんですよ。電車も時間通り来るし。でも外国行ったら時間通り来ないんですよ。だから、そういう感覚があるので、今、日生日本語学園やハウディで、うちの姉がお茶ができるので、実は6月に日本語体験のプログラムを組んでいるんです。日生日本語学園とも組んでいるし、奈良とか、いろいろな伝統文化を知るためのところに先生が連れて行ってたりしているんです。だから、決して彼らはやっていないわけじゃないし、そのことをもうすごく重視してるんです。

もう1つ付け加えて言うと、「日本語学校で団体つくられへんの」って聞いたら、それはそれぞれの利害関係とかがあるのでできないんですよ。だから、連携と言ったときに、日生日本語学園が400人規模なんで、でかいんですよ。そうになると、1つのところに固まる形勢があるので、そこは慎重にやらないと、実は日本語学園の横の連携がないんで、ちょっとそのへんは慎重にならないといけないかなと思うのと同時に、今ネパールの人たちは、このまちに就労するんですよ。昔は帰るとというのが前提だった。例えば日本の文化が楽しいから来ていたインドネシア人とか知ってますけど、実際帰るんですけどね。やっぱり彼らは今、住むという前提で来ているので、一番大事なものは、若干ずれるかもしれないけど、住民として彼らとどう付き合うかということが、やっぱり日本社会に求められているんじゃないかなと。それをなしに、例えば一緒に生きていきましょうとか言ったとき、危険性がはらんでるんじゃないかなと。日本語学園との連携に関しても、一歩間違えると、偏った形での連携になるんじゃないかなという感じがします。

以上。

○今井委員

はい、ありがとうございます。全てお話がつながっているような気がしています。大阪わかば高校だけとか、日生学園さんだけとかになると、なかなか動きづらいというところで、先ほど部会長さんが言われたような、間に入るようなところが、多分地域やと思うんですね。学校とか行政ではなく、地域でワンクッション間に入るようなところが、そういう場所を作ることによってその人たちが集まれる場っていうのが。そこにいろいろな情報提供だったりとか、もちろんマナーとか文化の違いもそうですが、そういったものが必要なのかなというふうに思っています。

もう少し時間ありますので、皆さんいかがでしょうか。はい、足立委員、お願いします。

○足立委員

足立です。2点。地域の中心になる連合長会長さんの会議とかがあると思うんですけども、やっぱり区役所としては、そこに情報提供をするのと、区の方針をきちっと、この多文化共生のまちづくりをやっているんやと。そのためには、地域の足場から、自分とこの地域にいる外国の人たちを巻き込むようなイベントなりを考えてほしいんや、みたいなかたちで積極的に呼びかけてもらうのが大事かなと思って。うちの地域でもそうやけど、外国の方とは生活習慣とか考え方も違うからといって、なかなか相入れなかった長い歴史があったりしてて、でもそういう時代じゃないし、一緒にやるんやっていうことが、そういう時代だから、そこにやっぱりみんなアイデア出して関わっていくんやみたいな、そこを中心にしてほしいっていう、なんか強い姿勢っていうか、そのためのサポート。言葉の問題であったりとか、いろいろなこと。例えば、どこと組んだらいいのとか、どんなふうにやったらいいかみたいなことは、区役所がサポートするから、是非とも、既にこういうことやっているみたいなほかの地域の良い事例を、その地域のトップの人たちにきちっとレクチャーするなり、具体的にやってほしい。地域で競争するわけじゃないけど、やっぱり積極的に頑張っている地域っていうのがあれば、うちも一回やってみようかな、みたいな雰囲気を、まずやっぱり区役所が率先して作ってほしいなっていうのが1点。

もう1点は、学校の校長先生たちに、区役所はいっぱい良いものを作っているんですよ、子育ての包括さんがいっぱい作っているやつとか。これ、知らない先生がたくさんいるんですよ。学校として個人的に配っても子どもが親に渡せへんかったりとか、届かないことがあるから、私はやっぱり、ちょっと子育てでもやってみるとか、外国籍のお母さんたちにこんなんあるよとか、多言語のやつとかを、年に2回か、個人懇談会とかそういう機会があるときに、うちの地域でも、例えば、「ここに行ったらお弁当もらえるみたいですよ」みたいな一声を、具体的に直接、学校ぐるみでかけてもらうっていうか。学校に困ったことは相談したけど、「ここにつなぐこともできるよ」みたいなことを、校長先生自体が情報を知らない。地域でどんな活動をしてはるのかを知らない。こういう子育てマップを配るだけで、活用について先生方にきちんとした落とし込みをしてないと思うので、是非ともその2点は、それぞれ会議のときなんかには区役所のほうで具体的な呼びかけをしてもらえたらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○今井委員

はい、ありがとうございました。足立委員からは、外国籍、言葉の問題だけではなく、ほかの情報提供も幅広く、しっかり当人たちまで届かないといけないんじゃないかっていう、そういったご意見だったと思います。

ほかにはいかがでしょうか。はい、お願いします、永裕委員。

○永裕委員

先ほどからの皆さんのお話を聞いていて、やっぱり地域の中でもそうですし、私は、子どもが現役小学生なのでPTAにも関わっているんですけども、PTAで学校のイベントをするときとか、掲示をするときに、日本語だけの掲示だと伝わらへんのですね。でも重要な案内や禁止事項があるので、ピクトグラムプラス多言語ということで、日本語プラス、ほんまに5か国語ぐらい書いてるんです。やっぱり初年度伝わらず、2年目それをやって、さらにもっと拡充したのを今年ってやってるんですけど。これまたPTAの親だけでやるのはハードルが高い。どうやってその言葉を出せるかっていうと、基本Google翻訳で出している。せっかく民間の中にも、ほかのところに社会資源がある中で、地域も、PTAもそうですけど、そういう人たちとどうつながっていいか分からへんっていうのが、やっぱり1つあるので、そういうところがうまくつながるきっかけになるんではないのかなと。地域のお知らせとかも日本語だけじゃなくて、ほかの言語で出したくなっていったときに、やっぱりそこをサポートしてくれる人をつないでもらえるとありがたいなって思うのが1つあります。

あともう1つは、地域の中で活動していて、皆さんがそうだとはいわないですけども、やっぱりいろんな方がいて、一部の中には、新しい文化、新しい交流っていうところに、どうしても警戒心の強い方というのもいらっしゃって。知らない文化は怖いっていうところが、人間の真理としてどうしてもあるというのは仕方がないことだと思うんですけど、そこの相互理解が進むような、地域で活動している方たちがそれを知れる機会というのがあるとありがたいなとは思いますが。

区全体でそういうイベントをしてくださっているのも分かるんですけど、地域で活動しているとなかなか自分の地域の中から出ないので、そこを何かアプローチする方法があると、もともとのテーマは日本語学習ですけど、そういうところにも、「こういうところあるで」とかっていう、そこがきっかけで、日本語学習とかのところにもつながっていくと思うんですよ。全部地続きだと思うので、やっぱりその間の取り持つところっていうのを何かしらのアプローチがあったら、うまく流れ始めるんじゃないかなというのはいすごく思っています。

○今井委員

ありがとうございます。キーパーソンをまず見つけてほしいですよ。外国籍の方でもすごい力持った方がたくさんいると思うんですよ。その方をいかに見つけて、その人と一緒に何かやるみたいな。そういう発掘みたいなのは、皆さんも、「この人キーパーソンになるわ」みたいな方がいらっしゃったら、是非教えていただけたらなと。

○永栢委員

ちょっと言い忘れたんですけど、生野区のやさしい日本語マークはすばらしいですし、全国的にも認知が進んでいます。ただ、意外と生野区内の活動してる皆さんが知らへんのですよ。すごいもったいないと思っていて。私も広報をやりながら、やさしい日本語での発行をめざして作ったりもしますが、やさしい日本語を学ぶ機会もなかなかない。ネットとかで情報を見て、こんな感じかなっていうのでやるんですけど、研修とか理解できるチャンスがもう少しあると、そういうのに地域の方が参加できるっていうのが1つの手かなと思うので、その機会を是非増やしていただきたいと思います。

あと、あのバッジとステッカーはかわいいので、もっと欲しいなど、いろんなところにあるといいなと思います。

○今井委員

アイデアをたくさんいただきました。相互理解とやさしい日本語みたいなのは、学ぶような機会が地域それぞれであつたらいいですよ。是非、こういう研修があつたらいいとか、こんなものがあるとちょっと外国の人たちと仲良くなれるっていうのがあれば、地域から声を上げるというのはどうでしょうか。あと少しだけ時間がありますが、他はいかがでしょうか。はい、安委員、お願いします。

○安委員

テーマは違つたんですけど、テレビで見たんですけど、足立さんは教育現場におつたからあれですけど、大阪市の公立小学校に1人の中国人の男の子が来るんですよ。そのときに、その先生がブラックの教師という焦点やっけんけど、翻訳機を自腹切るんですよ。僕はアイデアを言うのはええんやけど、ハードとソフトがあつて、そのソフトを行政は言うんじゃなくって、やっぱりハードの部分も確保してないといけないと思うんですよ。というのは、そこの小学校、翻訳機が1つしかないんですよ。そんな、たくさん来たら困りますよね。どういうかたちになるか分からない。この前マレーシア行ってきましたけど、マレーシア語とか分かんないわけですよ。コミュニケーションが取れないんですよ。娘が英語をしゃべれるからコミュニケーションが取れたんやけど、いかにコミュニケーションが大事か、文化を知ることが大事か、そこのハード面を埋めないと、ソフトばかり、アイデアばかりおっしゃるのはどうかなと思います。

○今井委員

ありがとうございました。ハードも準備しろということですが、でも私たちがスマホとか持ってまして、Google 翻訳とか日常的にいろいろできたりするアイテムがあるので、そんなのも駆使しながらいろいろできるかなと思います。

そろそろ時間ですが、あとお1人くらい大丈夫でしょうか。ご意見ありますか。

まずはこの外国ルーツのということで、今回のテーマは皆さんにたくさんアイデアをいただきまして、本当に是非、地域からもやっていったらいいと思いますし、また行政の方もご意見を実現に向けて何かしていただけたらなと思っています。アイデアありがとうございました。

そうしましたら、お1人くらいで大丈夫でしょうか。じゃあ最後になるかもしれませんが、ほかにご意見ありましたら。足立委員。

○足立委員

先ほど言ったんですけど、統合再編した学校についての今の課題。統合再編した今、何が学校で起きているのかを明らかにして、保護者の不安に答えなあかんのとちがうのかと思うんです。この間、整理していたら、再編の時のすごい資料がもうこれぐらいありました。私はもう数年関わったから。そこには美しいことしか書いてない。統合したらこんなに素敵になりますとしか書いていない。この間、お母さんたちと言っていたのは、統合する前と同じぐらいだったらいいけど、それよりひどくなるんやったら再編には賛成しなかったし、今よりも良くなる、こういうところが良くなるって言ったから、統合はいいなと思って賛成したのに、前よりも良くなっていないことのほうが多いんちがうかって。具体的にいろいろ聞いたけども、それは皆さんの捉え方やご意見もあって、学校や行政の立場では違うから、あれやけども。全体として、統合した前よりもひどくなっているものがあれば、すぐに是正しないとあかんのちがうかな。騙されたみたいな感がものすごく今漂っている。だから具体的に、校舎の建築もすぐに対応されたからそうなったと思うんです。後から出てくる問題もあると思うから、それは仕方がないと思うんだけど、これからやりはるところがあるとするば、すごい不安やと思うから、やっぱり何が課題で、どこが抜けてたのかっていうのを、行政としてきちんと、数値的にも、やっぱりそういうのを具体的に把握せなあかん。そういう意味で、安委員が言ってはった、きちんとした声を聞くつもりがあるのかどうかということで、ないのであればどこかに頼んでやるか、もしも、この助産師さんたちのアンケートみたいに自主的にやっていただいたものをここに持ち寄っていいのであれば、それもありがたなと思っているので、是非ともきちんとした今の声を聞いてほしいと思いました。

○今井委員

はい、ありがとうございました。そうしましたら、後はよろしいでしょうかね。最初のほうにも、委員の方々から、区に少し回答いただきたいかなということがいくつかありましたので、それと、たくさんテーマに沿ってアイデアが出ましたので、そのことについても、もし区のほうから回答がありましたら、よろしくお願いいたします。

○中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

生野区役所地域活性化担当課長兼生野区教育担当課長の中條と申します。いろいろとご意見いただきましてありがとうございます。

多岐にわたって、事前質問に絡む部分と、あと工事の関係もそうですし、テーマに沿った部分もいろいろとご意見いただいたんですけども、それぞれについて、今お答えできる範囲でお答えをさせていただこうと思います。

まず、不登校の対応につきましては、大阪市のほうでも教育振興基本計画の中で、全国と同じように大阪市でも不登校の児童が増えてきているというところで、重点的に取り組む課題と考えております。委員のご指摘としては、学校の学びの外にいる人への対応についてどこまで考えられているのかというものだと思うんですけども、そちらにつきましても、事前回答にも書かせていただいているところではあるんですけども、まずはもちろん、不登校を生じさせないような学校にするという考えの中で、各学校で取り組んでいただいているんですけども、そこからさらにスクールカウンセラーとか、スクールソーシャルワーカーとか、専門家も連携いただいて、まずは、各学校で不登校になる事態をできる限りつくらないというところで、予兆などがあれば早期に対応して、通常の学校生活にする、通学が普通にできるという状態をつくっていくというところに力を入れております。

ただ、一方で、実際に不登校になってしまった子どもについてどうしていくのかというところにつきましては、学校内での別室での指導というところもありますし、それ以外にも、学校外でも、少しでも学校外であれば学習できるというような気持ちになって、それを積み重ねて、また学校のほうに通学できるようになっていく、そういうことをめざして、様々なかたちで取組をさせていただいているところです。

あと、不登校に関しましては、いわゆる保護者の方とか、いろいろお悩みになっているところの相談については、まずは学校のほうに、というところでもあると思うんですけども、こちらの生野区役所の5階とかにも、教育相談のサテライトとか、そういう相談の窓口も設けております。ただ、いろいろな取組について、学校現場も、保護者の方々とかにも、まだそれが認識されていない、届いていないということもあろうというご指摘かと思しますので、どのように必要とされている方に伝わっていくようにするのかというところは、また受け止めまして、考えていきたいと思っております。

それから、学校統合の、まず、生野未来の工事の関係なんですけれども、こちらにつきましては、当然、学校の児童数の予定、推計をもとに、それは実際に収容が確保される形で従前、計算をしまして、それに見合った形で実際に生野未来学園を工事もした上で再編ということで進めてきておるところですけれども、再編の直前に、国のほうで学校の編成の基準が変わりまして、35人学級という

編成基準になりました影響で、その学級数で推計を再度計算していきますと、ちょっと教室数を新たに確保しないといけないということになりまして、それを改めて設計なり工事ということで再編後にさせていただく事態になっているものでございます。工事をさせていただくにあたりましては、当該地域のほうにも、住民説明会をはじめ、ご説明をさせていただいており、保護者の方々にもご説明させていただいているんですけれども、再編の前後で引き続いて工事を行うかたちになっていることにつきましては、我々としても、子どもたちへの影響が非常に大きいものと考えておりますので、工事をやっている中での影響ができる限り少なくなるよう、学校、教育委員会と連携して、調整をさせていただいて、工事をやっているところでございます。

また、地域の方々にも、今回また祭りが1年できないという事態になっていることにつきましては、ご負担をかけることになり、非常に申し訳なく思っております。今回の工事の経緯につきましては、以上でございます。

これから再編のところにつきましても、もちろん児童の推計などを踏まえて、教室数の確保、工事が必要な部分は工事をするというかたちで進めてきており、通学の関係につきましても、通学路の安全点検等をちゃんとした上で、実際にいかたちで新しい学校の開校を迎えることができるようにと考えております。

また、適正の基準がどうなのかというようなご意見もあったかと思うんですけれども、我々、学校再編を進めてきておりますのは、これからの子どもたちにどういう形で教育環境を充実させていくかというところの、一つの考え方としまして、学校の中で、適正な規模の、人数というところは基本になるんですけれども切磋琢磨をする教育環境をつくりまして、その中で生き抜く力を養っていく、そのために一定数の規模が必要であるというふうに考えております。また、通学の距離のところにつきましては、大阪市の基準としましては一定、通学の基準を満たす範囲内で、この間の学校の再編をしてきているところでございます。

もちろんこれから再編を進めるところにつきましても、保護者の方、地域の方、いろいろご不安があることは我々も十分認識しておりますので、当該校区の検討会議委員の方、保護者の方の意見に寄り添って新しい学校を開校できるように、これからも取り組んでいきたいと考えております。

それから既に統合しているところ、再編前・再編後の状況が本当に良くなっているのかとのご意見につきましては、もちろん、各学校でも、これは再編しているところに限りませんが、学校としての課題を踏まえて、目標を設定し、評価するというのを、毎年やっているところでございます。我々としても、再編校につきましても、再編した後には当然より良くなるということを目標、前提として、それを実現していくように取り組んでいくのが行政の責任と思っておりますので、これからも各学校とも連携しながら検討してまいりたいと思っております。よろし

くお願いいたします。

私からは以上です。

○小川保健福祉課長

たくさんのご意見ありがとうございます。保健福祉課長の小川でございます。私のほうから産後ケア、あと妊婦さんのケアについてお答えさせていただきたいと思います。

まず、子育ての時に妊婦さんが来ていただいたときに、母子手帳のお手続きをしていただくことになるんですけども、その際にこのようなかたちで資料とかをたくさん妊婦さんにお渡ししております。この中には大阪市が作っておりますファイルですとか、様々なパンフレットとかも入っているんですけども、生野区では、特別に先ほどスライドにありました、このような「いくびよファイル」というかたちで、それぞれの方が妊娠して、今母子手帳を受け取った後に何か月後、妊娠初期から中期、後期等にどういう健診が受けられます、みたいなことを個々で書いていただくような資料を作らせていただいております。その際に、いくつか助産師さんのお話が出ていましたけれども、助産師さんとこのボランティアグループさんが作っておられます赤ちゃんとママの応援ブックというかたちで作られたパンフレットですとか、授乳の方法とかが載っている、お母さんの影響とかが載っているパンフレットも配らせていただいておりますし、パンフレットの中に先ほど出ました保健師の写真の一覧も含めて、生野区にいらっしゃいます助産師さんのお顔の写真を入れさせていただいたファイルも一緒に配らせていただいておりますので、連絡先等も配らせていただいております。

ただ、先ほど助産師、保健師とかじゃなくて、一般職員が窓口で受け付けていたということをお伺いしたんですけども、最初に受け付けるときには届出を受け付けさせていただきますので、事務職とか、窓口の当番で座っている人間が対応させていただいておりますけれども、その後に保健師さんと交代しまして、担当保健師、もしくは担当保健師が外に出ている場合は、他の保健師で必ず対応させていただいているのが現状ではあります。今申し上げたみたいに、産後ケアとかについてもパンフレットをいただいたり、配らせていただいたり、実際に訪問いただいたりしておりますので、助産師さんの皆さんとはこれからも協力体制をつくりながらやっていきたいと考えているところです。

足立委員からありましたアンケートなんですけれども、ここに書かせていただいているアンケートは、去年から大阪市のほうが開始しました制度で、妊娠8か月の方にオレンジ色のアンケートの葉書を送らせていただいて、今のお体の具合ですとか、出産後、産後に保健師とか助産師の訪問を望まれますか、というかたちでのアンケートを取らせていただいておりますので、こういうことをやり

たいということで書いていただく分じゃなくて、産後すぐの対応についてどうですか、その頃、妊娠8か月になりますと、実家のほうで、里帰り出産される方とかも準備もされておられますし、その他、大体もう産む病院も決まっておられたり、働いておられる方は育児休暇の手続きとか始まっておりますので、そのへんについてお話をさせていただけるような、その葉書で訪問させてもらいますとか、何か困っていること、これやりましたか、あれ終わりましたか、これ終わりましたか、みたいな形で書いていただくようなアンケートになっております。

あと、そのアンケートにつきましては、去年から始まった制度で、区役所のほうの集計なんですけれども、対象者が847人のところ、今のところ手元で数えた分になるんですが、662名の方の回答をいただいております、約8割の回答をいただいているような、妊娠8か月の妊婦さんのアンケートになっております。

あと、安委員からありました、授乳の間違った知識とかをネットで調べてしまって、そのお母さんが困ったことになったりとか、それが広がってしまったりとか、1人で勝手に自分の情報源でっていうのが、私たちのほうも大変怖いので、先ほど申し上げたみたいなかたちでファイルを使わせていただいたりとか、広報紙を使わせていただいたりとか、あと妊婦さんの間にも妊婦健診とかがありますので、そのチャンスを捉えてお母さんとお話をさせていただくとか、ウェルカムベビースクールですとか、妊婦さんの歯科健診とか、様々な妊婦さんに対してアプローチをさせていただいて、その対応を保健師なりがさせていただいて、お話をさせていただくというかたちを取らせていただいておりますので、また、どこかの機会でお母さん方とお話できるようなチャンスがあれば、そこにも取り組んでいけたらなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

私のほうからは以上です。

○今井委員

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○足立委員

今の意見聞いて、ツッコミどころ満載というか、だからどうなんと思つたけど、もう今日はこれで終わりやったらもういいなと思つて。一言だけ言わせてもらえたら、そんな立派なん作つても読めないからしんどいわけで、立派なリーフレットも作つても、誰かと一緒に「これはこうやで」とか読めない。さっき切磋琢磨つて言つてはつたけど、自己責任の中で全部返されて、しんどい子が不登校になったり、そういう課題がある妊産婦さんだったり、産後ケアが必要な人になったりするの、そこは全面的な寄り添いっていう立ち位置でやっぱり区役所としては進めていかなあかんのちがうかなつて思つたんで、やつてはること自体は全然すばらしいというか、やつてはるけど、それを具体的にするためのサポー

トが、寄り添いが必要なんちゃうかっていうのが今日の論議やったんちがうかなど。一つひとつのことは言わないですけど。ごめん、これで終わるんやったら、やってる意味ないなと思ったんで。以上です。

○安委員

最後に一言。

振り返りを読んでたら、「ちゃんとやりました」。で、小川課長がおっしゃってるのは、「やりました」。それはやってるんでしょ。

でも、このアンケートを読んでもらいたらいかに分かるように、産後ケアの利用率も7%。ネットを頼ってしまってるという現状があることに対して、足立さんがおっしゃるように、もっと寄り添う気持ちにならないと。本当にこの自由意見、特にこれをつけようかどうかと思ったんですけど。160人のうち100人ぐらいが自由意見言うんですよ。もういっぱい言いたいことがあるわけですよ。それに行政がやっぱり付き合わないとあかんわけですよ。はっきり言って、「やった」「こんな見せました」なんかどうでもいいねん。伝わらないと駄目なんですよ。そこはちょっと考えてもらわないと。伝わらないことは成果がないとイコールなんですから、そこを深く受け止めてほしいなと思います。

○今井委員

はい、安委員、ありがとうございました。区役所のほうでもまた、今日配られた紙だと思いますので、しっかり持ち帰っていただいて、次の施策、事業につなげていくってことをしていただいて、これは多分外国籍も同じで、情報が届いても一人ひとり寄り添ってもらわないと分からないっていう、今日のまさにテーマにつながる問題だと思うので、私もこの外国籍の子どものことはすごく関心がありますので、是非皆さんとも引き続き考えていけたらと思っています。

私もしっかり時間のあれができませんでしたが、活発なご意見いただきましてありがとうございました。そうしましたら終了させていただきます。

○永松委員

はい、今井委員ありがとうございました。皆さんの熱い意見をありがとうございます。お疲れ様でした。

それでは続きまして、議題2の、区政に関する意見交換会の開催についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

区政に関する意見交換会についてご説明させていただきます。配付資料はございませんので、前方のスクリーンをご覧ください。

生野区の取組については、区政会議でも委員の皆さまにご意見をいただいておりますが、大阪府立大阪わかば高等学校の生徒さんと意見交換会をさせていただく予定にしています。開催時期としましては、令和6年8月から11月を予定

しています。開催趣旨としましては、若い世代の方々に区政への関心を持っていただくこと、区役所としても若い世代の方々の自由な発想や意見を聴取することは、施策・事業展開を検討する上でも重要であると考えており、貴重なご意見を伺える機会になると考えています。

事務局からの説明は以上となります。

○永裕委員

はい、ありがとうございます。ぜひ今日も皆さん熱い意見でしたけれども、若い世代の方々からもまた同じように自由かつ柔軟な発想の意見を聞いていただいて、施策・事業に生かしていただければと思います。

それでは最後に議事3、その他ということで事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それでは、私のほうから1点お知らせをさせていただきます。本日いただきましたご意見につきましては、7月23日に開催をされます全体会で部会報告をいただき、他の部会の皆さまにも共有していただきます。部会報告の内容は、事務局にてひとまず整理させていただきます。本日進行を務めていただきました今井委員と調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○永裕委員

はい、ありがとうございます。それでは、本日の会議を踏まえて筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

長時間にわたりましてたくさんの貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。

外国人の方の状況をちょっと申し上げます。生野区はもともと5人に1人が外国人の方で、都市部としては日本で一番外国人の比率が、皆さんご承知のように高いわけですが、今まで大体60か国と申しましたが、先日確認したら79か国に増えていまして、コロナが明けて多分一人で働いておられた外国の方が今どんどんご家族を呼び寄せている状態で、どんどん増えてきています。幼児から高校生まで日本語が話せない児童が今どんどん増えていて、またご家族の中で誰も日本語が話せないご家庭もどんどん増えてきているという状況です。地域によっては、半数以上が外国人の方という保育所も出てきていまして、これも何年か経ったら小学生の状態になっていくわけですね。

ですので、これはもう新しいステージに入ってきているのかなと思います。多分、従来の行政手法では対応できなくなるのは明らかだと思っていまして、今のこの状況の正確な把握をしないといけないので、状況の調査、それから、分析と

対応策を検討するという調査分析検討業務を事業者公募しまして、特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっとさんが事業者に決まったところです。今年度、これに本腰を入れて対応策を考えていこうと思っています。これはもう多分、行政だけでも、いろいろな支援団体だけでも、地域だけでもできないと思うんですよ。全部が総がかりで対応していかないと。

それから、資金的な問題も何とかして基金的なものになるのかどうなのか。何か新しいシステムを組んでいかないと、多分対応できないんじゃないかなと非常に危機感を感じています。

これはもう、今、日本全国で人口が減っていく中で、外国の方とともに暮らして、ともに働くというのは確実に増えてきますので、日本全体の問題にもなるわけですよ。それを解決する糸口になるモデルをつくるっていうのは、日本で一番外国人比率の高い都市である生野区が先導するモデルとならざるを得ないと思っていますので、全力でそれに取り組んでいかないといけないと思っています。

ですので、「区役所ももっと踏み込んで」という厳しいご意見をいただきました。おっしゃるとおりで、踏み込んでいかないといけないわけですけど、ただやっぱり日本全体で今、人手も不足して働き手も確保できないという状況がどんどんひどくなって行って、それはもう行政も一緒なんですよね。あとは踏み込み方ですよ。従来のような職員を増やしてそれで対応していけるかという、それもなかなか時代的に厳しいものになると思うので、やっぱりその踏み込み方も連携してこれから真剣に考えていかないといけないなと思っています。

いろいろな連携も、日本語学校さんとの連携も始めています。それから YOLO JAPAN さんと就労支援も始めています。三栄金属さんという会社が生野区にありますけど、ここは社員さんの半分以上がベトナムの方です。工場長もベトナムの方で、奥さんもベトナムの方ですけど、ご結婚して子どももおられて、家も買って、もちろん税金も納めてというかたちで、子どもさんも小学校に行かれています。三栄金属さんは、日本人もベトナムの方も給与差は全くつけていないので、こういうかたちになれば非常にいいと思うんですね。

今生野区にもものづくりの企業も飲食のお店もたくさんありますけど、そういうところとも連携して、外国の方が孤立することなく、このまちで安心して暮らして、学歴も、働く職も得ることができるという機会をしっかりと確保できる環境を作っていくということが大事だと思っています。

先般も東生野中学校、東中川小学校で外国人の児童に勉強を教えてもらったり、相談に乗ってもらったり、お話ししてもらったりという機会を、ハウディ日本語学校さんに来ていただいて、日本語学校の先生が対応してくれました。母語で子どもたちと話してもらおうと、特に中学校なんかは、日常生活よりも非常に明

るく元気にしゃべっていただいたというのを学校の先生も聞きましたので、そういういろいろな連携の形を地域のほうとも、いろいろな地域の交流イベントをつなぐ機会を考えていかないといけないと思っておりますので、また皆さんと、いろいろお力をいただきながら、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

○永裕委員

はい、筋原区長ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。令和6年7月23日には全体会の開催が予定されておりますので、皆さんご参加よろしく願いいたします。

それでは、これにてこどもの未来部会を終了します。皆さまお疲れ様でした。